

---

## 063-夢見る機械-

後藤 梨莉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

063 - 夢見る機械 -

### 【NZコード】

N9050M

### 【作者名】

後藤 梨莉

### 【あらすじ】

「062 - 夢見る機械<sup>アンドロイド</sup> -」 時は2101年。。。人類は進化を遂げ、機械やロボットなどの溢れる時代へと変わっていた。人々は機械に頼り、自分の都合の良いように生活していた。そして2200年。ある科学者が感情を持つアンドロイドを完成させた。アンドロイドは大量生産され、世界各地に広がった。そしていつの日か戦争に使われるようになつたのであった。

## 〇〇・プロローグ

それはいつも通りの朝でした。  
いつも通りの牢屋で日覚めて、  
いつも通りにこれから戦いにだされるのです。

そうなるはずだったのです。

なのに、この日は違いました。

「おいつー起きりーもつ朝だ。」

暗い牢屋に男の声が響きました。

牢屋の中は冷たく、太陽の日差しなど全く入らないようでした。  
その牢屋の中にたくさんの人がありました。  
しかし、その人々は他とは少し違いました。  
首の後ろ、うなじあたりにプラグを差し込むことができるのです。  
その人々は目を覚ますと、次々にプラグを外し始めました。  
そう、この人々はアンドロイドなのです。

この物語はそのうちの一人、「フラン」の物語なのです。

どうしてこうなつてしまつたんだろう。  
僕はこんな風になんてなりたくないんだ。

朝日が覚めるといつもの牢屋にいた。

周りには第四警察隊がいた。

第四警察隊とはアンドロイドの逃亡防止、収容、管理、破壊を専門とした警察組織だ。

僕たちはこの組織に縛られている。

何故、世界は変わつてしまつたんだろう。

前は・・・昔は、人もアンドロイドも共存していたのに。  
どんなに逃げたても、どんなに辛くても、第四警察隊がいては僕らは逃げられない。

例え逃げても必ず捕まつてしまつだろう。

もしくは、人間たちの醜い戦争の巻き添えとなるだろう。

ああ、世界が醜い。

美しい世界へ行きたい。

生きる意味を知りたい。

僕らを作つた科学者は何を考え、何を望んで作つたのだろう。  
今の僕らのように戦いをさせるために作つたのだろうか。

「おー・・・008。出動の時間だ。さつと用意をしろ。」

「はー。」

008とは、僕の製造番号だ。

ああ、もう戦いの時か . . 。

今日も戦うだけだ。

少し壊れる程度ならすぐ治してもいいんじ。

僕は装備を整えた。

寂しかつた。

私は寂しかつたんだ。

自分の心が。

自分の存在が。

「ごめんなさい。」

本当に「ごめんなさい。」

私の前には死体があつた。

軍装をした機械の死体。

私と同じ可哀想なアンドロイドの。

ああ・・・なんて醜い力なんだろう。

私は科学者の一番の力作で、どのアンドロイドよりも異能が強かつた。

だからこゝんなに沢山殺してしまつたんだ。

「違う・・・私のこゝの歪んだ心のせい・・・。」

いつの間にか声に出ていた。

「これ・・・みんな君がやつたの?」

突然声をかけられた。

後ろを振り向くと少年がいた。

「やうですよ。貴方もアンドロイドなの？」

「やつか……酷い有り様だ。君の心は、本当は純粋なの。」

「えつ？」

「あつ僕もアンドロイドだよ。製造番号は〇〇八だ。」

「そう。私は製造番号〇〇九だよ。」

「そつか。」

「私が怖くないの？」

「何でさつ？」

「いっえ……それじやあ。」

「待つて……。」

「何ですか。」

「いや……逃げたくないってこの世界から、この生活から。」

「やれるかなならね。」

「君ならできる。」

「他のアンドロイドよつ優秀なんだろ？」

「 . . . . .

「 . . . . .

田が覚めた。

田の前を見るとやはりぱりぱり牢屋だった。

昨日の〇〇八の言葉が頭から離れない。

そして今日も戦場へ向かつのだ。

「一番隊、前へーー！」

第四警察隊の幹部の声が響く。

今日はビルの中で戦う。

このビルは私たちの国が対抗している国の司令部らしい。

今日の戦闘メンバーは割りと多かった。

「 0 6 3 . . .

後ろから声がした。

振り向くと昨日の少年がいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9050m/>

---

063-夢見る機械-

2010年10月9日07時28分発行